



平和のバトンを引き継ぐランナーであれ！

2学期のスタートです。みなさんは、夏休みをどのように過ごしましたか？クラブの最後の大会、高校の説明会、受験勉強と、これまでの夏休みとは異なるものだったのではないのでしょうか。一方で、フランスのパリでオリンピックが開催されました。参加選手の活躍など、メディアを通じて多くのことが私たちに伝わり、勇気づけられました。しかし、それと同時に、SNSを通して、選手に対する「誹謗・中傷」も話題となりました。まず、それぞれの選手の思いやこれまでの苦労や努力すべてを私たちは知っているわけではありません。軽々しく言うてはならないことがあることを肝に銘じるべきです。

また別の角度から考えるなら、それぞれ見方や意見も異なるかもしれません。しかし、それでも人間同士、リスペクトするのが大事ではないでしょうか。18世紀のフランスの哲学者ヴォルテールは、「**私はあなたの意見には反対だ。だがあなたがそれを主張する権利は命をかけて守る。**」と言いました。この考え方こそが、民主主義の基本と言われています。意見が違ってまずは受け入れるということです。私たちの身近な生活に置き換えると、まずは挨拶をする、そして、リスペクトできるよう努力してみることです。しかし、世の中には残念な人たちがいます。自分の意見と違うからといって、感情的に攻撃する人がいます。また「批判をするなら対案を持ってこい」などと言う人がいます。これらは、人の話を聞くキャパシティは私にはありません、私は融通の利かない人間です、意見の違う他人をリスペクトするなんてとんでもない、と自ら告白しているようなものです。私たち大人も日々努力すべきですね。そして、みなさんにも忘れて欲しくないのは、受験勉強とは、学力を身につけることはもちろんですが、将来社会に出ていく一人の人間として、民主主義の基本を身につけることでもあると思います。それは、日々生活や特に関りが多くなる行事等で身につくものでもあるかと思えます。この2学期、体育大会や文化祭が行われます。クラスのみんなのことをリスペクトできるようになればいいですね。

さて、今年は広島・長崎に原爆が投下されてから、79年です。修学旅行で訪ねた長崎市の市長さんが読み上げた「長崎平和宣言」の一部を紹介します。

原爆を作る人々よ！しばし手を休め 眼をとじ給え。昭和二十年八月九日！あなた方が作った原爆で 幾万の尊い生命が奪われ 家 財産が一瞬にして無に帰し 平和な家庭が破壊しつくされたのだ。残された者は 無から起 たち上がらねばならぬ。血みどろな生活への苦しい道と 明日をも

知れぬ「原子病」の不安と そして肉親を失った無限の悲しみが いついつまでも尾をひいて行く。

これは 23 歳で被爆し、原爆症と闘いながらも原爆の悲惨さを訴えた長崎の詩人・福田 須磨子さんが綴った詩です。家族や友人を失った深い悲しみ、体に残された傷跡、長い年月を経ても細胞を蝕み続け、様々な病気を引き起こす放射線による影響、被爆者であるが故の差別や生活苦。原爆は被 爆直後だけでなく、生涯にわたり被爆者を苦しめています。それでも被爆者は、「世界中の誰にも、二度と同じ体験をさせない」との強い決意で、苦難とともに生き抜いた自らの体験を語り続けているのです。被爆から 79 年。私たち人類は、「核兵器を使ってはならない」という人道上の規範を守り抜いてきました。（中略）

世界中の皆さん、私たちは、地球という大きな一つのまちに住む「地球市民」です。想像してください。今、世界で起こっているような紛争が激化し、核戦争が勃発すると なるのでしょうか。人命はもちろんのこと、地球環境にも壊滅的な打撃を与え、人類 は存亡の危機に晒されてしまいます。だからこそ、核兵器廃絶は、国際社会が目指す持続可能な開発目標（SDGs）の前提 ともいえる「人類が生き残るための絶対条件」なのです。ここ長崎でも、核兵器のない世界に向けて、若い世代を中心とした長年の動きがさらに 活発になっています。今年5月には、若者版ダボス会議と呼ばれる国際会議「ワン・ヤン グ・ワールド」の平和をテーマとした分科会が、初めて長崎で開催されました。世界の若い世代が主役となって連帯し、行動する輪が各地で広がっています。それは、持続可能な平和な未来を築くための希望の光です。

平和をつくる人々よ！一人ひとりでは微力であっても、無力ではありません。私たち地球市民が声を上げ、力を合わせれば、今の難局を乗り越えることができる。国 境や宗教、人種、性別、世代などの違いを超えて知恵を出し合い、つながり合えば、私たちは思い描く未来を実現することができる。長崎は、そう強く信じています。原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の誠を捧げます。長崎は、平和をつくる力になろうとする地球市民との連帯のもと、他者を尊重し、信頼を育み、話し合いで解決しようとする「平和の文化」を世界中に広めます。そして、長崎 を最後の被爆地にするために、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けてたゆむことなく行動し続けることをここに宣言します。

2024 年(令和6年)8月9日 長崎市長 鈴木 史朗

第2回進路希望調査を実施します。

1学期5月末から6月にかけて、第1回進路希望調査を実施し、それにもとづいて、二者懇、三者懇を行いました。その中で、自分の考えを担当の先生や親御さんに表明したことだと思います。あれから、夏休みをはさんで、みなさんもさらに様々なことを考えたことだと思います。また、考えれば考えるほどよくわからなくなったという思いの人もいることでしょう。そのあたりのことを正直に第2回進路希望調査で表現してみてください。そして、この2学期希望進路を決定して、目標に向かって頑張りましょう。

